

る。

まとめると次のようになる。

【現状】

- 効果的な研修は、
経験Ⅰは「校内研修・研究会」
経験Ⅱは「自己研修・希望研修」
- 効果的な研修形態は、「演習・実技研修」
- 役立った研修内容は、教科指導
- 研修時間が少ない
- 研修に意義を感じている
- 研修したい内容は、「教科指導」
- 研究授業は、進んで引き受ける
- 研究への取り組みは、
小学校「積極的」、
中・高校「やや消極的」
- 小・中学校は定期的に研修時間を位置付けているが、高校は位置付けていない学校がある
- 研究のリーダーは「研修主任」
- 「授業研究」には概ね満足
「個人研究、実技研修」には不満足
- 時間的にゆとりがない（校務多忙）
- 反省・評価は概ね的確に行われている
- 研究テーマの共通理解不足

このような問題点をまとめると、次のようになる。

- 「研修意欲」に関すること
- 「研修内容」に関すること
- 「校内研修推進・工夫」に関すること
- 「研修の在り方」に関すること

以上、3つの調査研究を通して、学校の教員研修の実態が少しずつ明らかになってきた。その中から次のような共通の課題がみえてきた。

- 教員の研修意欲に関すること
- 校内研修推進に関すること
- 研修内容に関すること

2 今後の課題

明らかになった共通の課題は、日常の教育実践を通して解決できるものとする。

その課題解決策としては、

- 個人研修・共同研修の成果を広く取り入れて教員の意欲を喚起できるようにしていくこと
- 機能的・組織的に活動できる研究推進体制を確立していくこと
- 日常の教育実践に結び付くような研究方法・内容を取り入れていくこと

これらの解決策は、すべて「校内研修の充実」に関わるものであることから、今後の研究では、「校内研修」に焦点を当てながら、次の3点の解明に努めていきたい。

- 学校経営と研修の在り方
- 校内研修の在り方
- 若手教員の研修の在り方

